

種智院大學 同窓會報

第10号

平成3年7月31日

京都市南区壬生通八条下東寺町545
種智院大學同窓會

平成3年度總會開催

平成3年6月11日、梅雨の間のすばらしい晴天の日、同窓會平成3年度總會が開催された。母校の新校舎を一目見ようと、この校舎増改築事業に心血を注いだ同窓生諸師の思いをあらわすように、この日、これまででない多くの参加者を得て、盛大に總會がもたれた。

母校は、今年度より臨時定員増80名を文部省から認可され、現在289名の学生諸君が、活気にあふれる明るさをキャンパスに満たして、生き生きと勉学にいそしんでいる。若い後輩諸君のすがすがしい雰囲気は、新校舎の完成によって実現したものであり、この事業を支えた同窓生諸師の思いが、現実化した何よりの証拠であったのではないだろうか。

平成3年度總會は、午後1時より、新校舎が誇る講堂で開會。まず、物故者慰靈法要を會長池田瑩輝猥下を経頭に、般若心經一卷を唱え新校舎の完成を見ることなく遷化せられた方々への哀悼の意を表わした。

法要ののち、池田會長のもとで、開會の挨拶が述べられ、母校講堂ではじめての總會がスタートした。つづいて、來賓として真言宗京都学園理事長鷲尾隆輝猥下より、新校舎竣工に尽力された同窓會への御礼と、引きつづいてのご支援のお願いが述べられた。また、大学々長麻生文雄猥下は校舎竣工以後の重要課題として、宗門子弟教育の充実があり、教育内容のいっそうの向上に努力していきたいことを表明された。

次に、議事に入り、座長に手嶋千俊副會長を選出。次のような議事に入った。

(1) 平成2年度同窓會事業報告ならびに決算報告について事務局からの概要説明と、市橋眞明監査より帳簿・伝票等を厳密に調査した結果、正しく行われている旨の報告がなされ、この議題について承認した。

(2) 平成3年度事業計画ならびに予算につい

て事務局より説明。とくに、竣工記念事業を事業計画にくみ入れ、その予算として80万円を計上、昨年度の積立金20万円と合わせて100万円の規模での記念事業を計画。この問題について、手嶋座長より常任幹事會としての提案説明があった。これによると、この記念事業は、同窓會として新校舎の竣工を記念するために、記念となるべきものを寄贈すること、その具体的内容については、一案として、図書の寄贈等も考えられるが、正副會長に一任したいとのことであった。これらについて、總會は承認。

(3) 次年度における役員改選について、手嶋座長より、現役員は昭和63年秋の總會で選出され、平成4年3月末日をもって、その任期を終える。会則では後任者が決定するまで、引きつづきその職務を行うことになっている(会則第9条)。そこで、次年度總會では新しい役員を選出することになるが、總會の円滑な運営のために、常任幹事會に10名程度の役員選出委員會(当該委員については正副會長一任)を設け、役員選出を協議し、次年度總會でご審議頂きたいとの、常任幹事會の提案が示された。この件について總會は承認。

(4) 同窓會北海道地区の會合について、事務局より報告。昨年7月23日、北海道小樽市において初會合をもち、7名の参加。支部結成はしないが、支部に準じた活動を行い、役員も選出。

(5) 會費納入状況報告。事務局より現在(平成3年5月末日)の會費納入について終身會費415名、年会費185名であることが報告された。

(6) その他。手嶋座長より、今年2月に大本山中山寺長老に就任された同窓會常任幹事、兵庫支部長今井圓明猥下を顧問に推戴したい旨、提案がなされた。この提案を承認。

以上で、平成3年度總會の審議、報告事項をすべておえ、手嶋座長退席。引きつづき、種智院大學増改築事務局次長嶋裕海師より、種智院大學改

善事業中間報告がなされた。この報告によれば、まず、勧募状況については、平成4年度（平成5年3月末日）まで、減免税措置をうけられるが、なおいっそう入金、記帳を進めていきたいとのことであった。また、新校舎建築工事の工費については、6月末日には支払いをおえたいが、改善計画の重要な柱である設備の充実が立ち遅れている。とくに図書館、特別教室等は手がつけられていないため、学生諸君の教育に大いなる欠落を生み出している。校舎の完成で、改善計画を終えるのではなく、施設、設備を充実させ、教育研究の向上をはかり、真言宗門の最高学府たるにふさわしい内容と権威を備えるべく改善計画を実行していきたい。そのためにも、未記帳、未入金の方々への積極的働きかけを継続していくことを訴えた。

最後に、常任幹事、京都支部部長岩橋政寛師より閉会の挨拶があり、総会のすべてを無事終えた。

このあと、会場内で記念写真を撮影。さらに、嶋師の案内により、新校舎内の見学が行われた。屋上から順次下に降り、目を見張る新しさと、活気に満ちた学生諸君との出会いのなかで、一同感慨深く、ひとつひとつの設備を見入っていた。

午後3時より、臨済宗妙心寺派興禅寺住職、日中友好同志会々長吉田啓堂先生による「もうひとつの見方、考え方」との演題で、記念講演がおこなわれた。講演に先立って、池田会長より、講師紹介があり、池田会長とともに、世界連邦日本宗教委員会で活動され、難民問題にも詳しく、またNHK TV等で興禅寺の紹介がされたことなど、吉田先生のご活躍ぶりを示された。講演では、幅広い先生の活躍にふさわしく多岐に及んだが、と

くに、イスラムパワーの大きさを強調され、現在の世界情勢に対するもうひとつの考え方の必要を迫るものであった。

記念講演終了後、仁和寺執行長田中純應師より吉田先生に御礼が述べられた。こののち一同はバスにて、懇親会場のからすま京都ホテルに移動。懇親会では、池田会長、鷺尾理事長、麻生学長の挨拶につづき、大覚寺門跡井上紀生猊下に乾杯のご発声を願ひ、いっその盛り上がりにつつまれた。この中で、先の総会で同窓会顧問に推戴せられた中山寺今井圓明猊下に、同窓会よりお祝いの花束が贈られた。花束贈呈には、広島よりかけつけた蛸田真慧師にお願いした。なごやかな雰囲気なのか、司会の嶋裕海師のリードで、次々と同窓生諸師の思い出が語りつがれ、時を忘れるほどに、なつかしさが会場に充ちあふれたことであった。

総会出席者（順不同・敬称略）

| | | |
|--------|-------|-------|
| 喜多川 義晃 | 栗原 探乗 | 須方 智證 |
| 吉川 律城 | 松本 安正 | 安井 玄順 |
| 民岡 秀海 | 井上 紀生 | 安室 舜海 |
| 前嶋 義雄 | 金田修二郎 | 森田 龍雄 |
| 安東 法秀 | 潮 恵秀 | 手嶋 千俊 |
| 岩橋 政寛 | 江坂 宗純 | 奥寺 知光 |
| 川村 俊朝 | 衣笠 丹章 | 澤 実英 |
| 田中 実道 | 篠畑 俊成 | 法本 弘文 |
| 峰 覚海 | 森 見章 | 松野 栄三 |
| 手塚 利貞 | 今井 圓明 | 田中 純應 |
| 前田 和連 | 吉田 裕信 | 山田 達圓 |
| 荒谷 恵乗 | 生駒 研性 | 市橋 眞明 |
| 池田 瑩輝 | 加門 得勇 | 北村 議臣 |
| 藤本 浄海 | 福嶋 尊光 | 手塚 節 |



平成3年度種智院大学同窓会総会（於 種智院大学講堂）

英 真恵 棟広 照文 蠣田 真恵
井上 亮淳 神原 こよ 沖田 定信
川井 宏雄 北村 太道 土屋 博秀
嶋 裕海 松尾 初子 都筑 大乘
玉山 順彦 北尾 隆心 松森 良樹
渡辺 妙幸

学園・大学
鷲尾 隆輝 麻生 文雄 荻谷 定彦
沖 和史 佐藤 久光 吉田 元
金井 良徳
事務局
宮城洋一郎 児玉 義隆

竣工式は 10月4日(金)と決定

今年5月以来、数次にわたって理事会で検討されてきた竣工式について、去る7月4日の種智院大学校舎竣工式準備委員会(代表 鷲尾隆輝理事長)において10月4日(金)、大学講堂において竣工式、さらに、京都国際ホテルにて祝宴を開催することを確認、早速準備作業に着手とのことであった。なお、同委員会には、池田会長の委嘱により、手嶋千俊副会長が参加し、同窓会としてこの竣工式を支えていくことになった。

なお、竣工式を控えて、未記帳、未入金の方々への積極的な働きかけが大切であり、勧募の強力な推進が望まれているので、何分宜しくお願ひしたいとのことであった。

卒業祝賀会

3月15日、既報のとおり、卒業祝賀、謝恩会が大学卒業式終了後、京都国際ホテルにて開催。麻生文雄学長の挨拶につづいて、池田登輝会長より同窓会入会のお祝いが述べられた。この会には、大学卒業式で来賓として祝辞を述べられた智積院能化藤井龍心猥下、中山寺長老今井圓明猥下、さらに仁和寺執行長田中純應師も参列、また同窓会常任幹事篠畑俊成師、同生駒研性師、同監査吉田裕信師もお祝ひにかけつけ、盛会であった。

会は、同窓会々員である吉田大治氏(昭和60年)のあざやかな司会で進行。はなやかな雰囲気のか別れを惜しみ、未来への抱負が若者らしく明るく堂々と語られていった。

<<< 支部だより >>>

大阪支部総会

平成3年度の総会を4月25日(木)午後5時30分より、大阪市南区の南海飯店で開催。平成2年度の活動報告、会計報告、監査報告が行われ、また規約の一部を改正し、役員名を具体化し、事務局局長を設置した。また、今年度は支部役員の変更期にあたり、下記とおりの役員を選出。さらに平成3年度の活動・予算についても討議され、承認を得た。また、大阪支部では、これまでの名簿の不備を補い、住所不明会員等の解明にも全力をあげ、このたびも新たに判明した会員の方々の紹介があった。また、大学より宮城洋一郎助教授も参加し、新校舎の完成、勧募状況、同窓会本部総会の案内等について報告があった。

大阪支部新役員(敬称略)

| | |
|------|--|
| 支部長 | 田中 実道 |
| 副支部長 | 西端 良諦、法本 弘文 見城 芳行 |
| 事務局長 | 土屋 博秀 |
| 会計 | 玉山 順彦 |
| 幹事 | 藤崎 信幸、上田 靈宣 岩上 匡志、井上 俊幸 白木 利幸、佐野 剛空 西田 義範 |
| 監査 | 北村 太道、小西 光延 |
| 顧問 | 小松 道圓、中塚 栄澄 谷田 仁司 |

出席者(順不同・敬称略)

| | | |
|-------|-------|-------|
| 田中 実道 | 西端 良諦 | 法本 弘文 |
| 蓮沼 雅春 | 大西 猛 | 佐々木 初 |
| 見城 芳行 | 田中 和男 | 土屋 博秀 |
| 玉山 順彦 | 上田 靈宣 | 岩上 匡志 |
| 佐野 剛空 | 西田 義範 | |
| [大学] | 宮城洋一郎 | |

京都支部総会 7月20日(土) 於 大学会議室
兵庫支部総会 7月26日(金) 於 ホテル全但
両支部の報告は次号にて行います。

会 員 通 信 □□□□□□□□□□

松崎隆雄師 (昭和22年)

昭和62年4月に、永年にわたって勤務された小学校長を定年退職し、ふくやま美術館に勤務。同館では教育普及部にて、ご活躍中である。また、洋画家としてすでに多くの実績を重ねられてきたが、現在は光風会々員で、中央・地方の美術向上のため、奮闘中とのことである。

野路井宏之師 (昭和23年)

昭和63年より、本学非常勤講師として「児童福祉論」を担当されたが、今年3月で退任、6月1日よりかねてより関わりの深かった重度盲精神薄弱児施設「彦根学園」および盲精神薄弱更生施設「彦根青年寮」の施設長として着任。母校卒業以来培った社会福祉の実務と理論を本格的に実践化されることになった。同施設はこれまで困難な課題を持ってきただけに、野路井師の活躍に、県内外からの熱い期待が寄せられている。なお、施設長就任を機に、母校の意欲ある卒業生を招き、学園経営の人材確保をはかっていきたいとの意向を述べておられる。

同窓会本山協力委員

(敬称略・受付順)

- 大本山 清澄寺 有井良随、国道道晃
- 総本山 善通寺 大林教善、菅 智潤
- 大本山 中山寺 南 本源、養学玉恵
- 総本山 醍醐寺 田中祐弘
- 大本山 須磨寺 富永龍心、田中鐘暁
- 山下高仙
- 総本山 仁和寺 川井宏雄

新宅 正師 (昭和28年)

平成3年1月、これまでの30以上にわたる化石骨収集の成果をまとめられ、『怒和島水道海域海底産出の哺乳動物化石——「新宅コレクション」の報告と解説——』を出版。同書に「新宅正先生のコレクションとその意義」の論文を書かれた宝樹寺化石資料室の渡辺克典氏は「新宅先生がコレクターの鑑ともいえるような、一貫した収集方針を堅持してこられた」ことを讃美され、その熱意と努力によって、150頁に及ぶ本書がつくられたのであった。詳細な解説のみならず、ひとつひとつの化石骨のなかに、30数年のたゆまぬ成果があらわれており、あらためて、本書の刊行を喜びたい。

なお、本書は母校図書館にも架蔵され、後輩諸君にも供せられることになっている。

本書に関する問い合わせは、直接新宅正氏まで
〒737 広島県呉市和庄本町17-2

電話 (0823) 22-8435

■計報 (順不同・敬称略)

- 安田教遵 (大正14年) 昭和45年12月ご遷化
- 原口良幢 (昭和16年) 平成2年1月24日ご遷化
- 杉村明彦 (昭和14年) 平成2年9月16日ご遷化
- 松本栄範 (昭和15年) 平成2年10月25日ご遷化
- 三浦俊紀 (昭和30年) 平成3年1月26日ご遷化
- 夏目祐伸 (昭和23年) 平成3年7月2日ご遷化
- 昭和57年より63年まで同窓会幹事
種智院大学教授
- 九田達文 (昭和11年) 平成3年7月11日ご遷化
- 加藤融光 (昭和17年) 平成3年7月19日ご遷化

◎慶事

土田耕司氏 (平成元年) 平成3年2月3日ご結婚

真 言 宗

深 法 山 金 比 羅 院

池 上 幸 範

岡山県高梁市落合町阿部

種智院大学同窓会平成2年度決算

〔収入の部〕

平成3年3月31日 (単位 円)

| 平成2年度予算 | | | 平成2年度決算 | |
|---------|-----------|----------------------------------|-----------|--|
| 科目 | 金額 | 備考 | 金額 | 備考 |
| 会費 | 1,500,000 | 終身会費 @20,000×67 年会費 @2,000×80 | 1,201,000 | 終身会費、年会費 @20,000×53、 @14,000×1、10,000×1、 @3,000×1、2,000×57 |
| 懇親会費 | 300,000 | @10,000×30 | 260,000 | @10,000×26 |
| 受取利息配当金 | 120,000 | 金銭信託 (110,000) 郵便貯金 (10,000) | 132,463 | 金銭信託 (99,276円) 郵便貯金 (26,029円) 定期預金 (7,158円) |
| 雑収入金 | 370,000 | 名簿収入金、広告代 総会・懇親会等御祝 | 330,550 | 名簿売上@2,500×3、広告代8件、 御祝金5件、名刺交換2件 |
| 前年度より繰越 | 5,715,252 | | 5,715,252 | |
| 計 | 8,005,252 | | 7,639,265 | |

〔支出の部〕

| 科目 | 金額 | 備考 | 金額 | 備考 |
|--------|-----------|---|-----------|----------------------------------|
| 人件費 | 100,000 | 発送アルバイト分 | 45,200 | 受付アルバイト4名分 会報発送アルバイト7名分 |
| 総会諸費 | 130,000 | 総会諸費用 (80,000) 講演料 (50,000) | 112,876 | 総会諸費用 (62,876円) 講演料 (50,000円) |
| 懇親会費 | 300,000 | @10,000×30 | 301,079 | 懇親会諸費用等 |
| 消耗品費 | 50,000 | 事務用品、コピー代 | 4,450 | 事務用品等 |
| 印刷製本費 | 370,000 | 会報3回分、ハガキ等 | 235,870 | 会報、ハガキ、封筒等 |
| 通信費 | 480,000 | 会報発送費、案内状送付切手代 | 74,752 | 会員宛各案内状送付切手代金等 |
| 会議費 | 150,000 | 常任幹事会等 | 29,700 | 常任幹事会等 |
| 慶弔費 | 50,000 | | 10,000 | 森 諦圓初代会長生花一对 |
| 旅費・交通費 | 50,000 | | 44,520 | 交通旅費 |
| 事業費 | 380,000 | 卒業祝賀会補助金・記念品代 (180,000) 竣工記念事業積立金 (200,000) | 387,854 | 卒業祝賀謝恩会補助金・記念品代 竣工記念事業積立金 |
| 援助費 | 270,000 | 支部活動援助金 | 252,900 | 14支部活動援助金 |
| 雑費 | 50,000 | | 62,627 | 郵便振替払出手数料、金銭信託 解約手数料、支部援助金手数料 |
| 次年度へ繰越 | 5,625,252 | | 6,077,437 | |
| 計 | 8,005,252 | | 7,639,265 | |

種智院大学同窓会平成3年度予算

〔収入の部〕

(単位 円)

| 科目 | 金額 | 備考 |
|---------|-----------|---|
| 会費 | 1,000,000 | 終身会費 @20,000×40 年会費 @2,000×100 |
| 懇親会費 | 500,000 | @10,000×50 |
| 受取利息配当金 | 160,000 | 定期預金 (110,000) 郵便貯金・普通預金 (50,000) |
| 雑収入金 | 370,000 | 広告代、総会御祝等 |
| 前年度より繰越 | 6,077,437 | |
| 計 | 8,107,437 | |

〔支出の部〕

| | | |
|------|---------|--------------------------------|
| 人件費 | 50,000 | 発送アルバイト分 |
| 総会諸費 | 130,000 | 総会諸費用 (80,000) 講演料 (50,000) |

| | | |
|--------|-----------|---|
| 懇親会費 | 500,000 | @10,000×50 |
| 消耗品費 | 50,000 | 事務用品 |
| 印刷製本費 | 370,000 | 会報3回分、ハガキ等 |
| 通信費 | 200,000 | 会報発送費 案内状送付切手代 |
| 会議費 | 200,000 | 常任幹事会等 |
| 慶弔費 | 50,000 | |
| 旅費交通費 | 50,000 | |
| 事業費 | 1,000,000 | 卒業祝賀会補助金・記念 品代 (200,000) 竣工記念事業積立金 (800,000) |
| 援助費 | 270,000 | 支部活動援助金 |
| 雑費 | 70,000 | |
| 次年度へ繰越 | 5,167,437 | |
| 計 | 8,107,437 | |

降誕会に想う

宗教部長

井上 亮 淳

私の学生時代の降誕会は、2日か3日程あり、15日の降誕会法要を中心として夕方から10時頃まで、大師音頭で、近所の方々とよく踊ったものである。また各山の管長猊下の墨蹟展など色々な催物をしたことを思い出される。

そのための費用調達に5月末頃から各山、有名寺院、仏具・法衣店等へ御寄付のお願いをしに行く。遠方へ出かけるときなどは、四条大宮（そのころは阪急電車の始発駅）から電車を出かけるが、その車中で弁当をとる。大変はずかしいのであるが、先輩の命令であるから、しかたがない。

大師踊りの衣装は清荒神さんのお世話で、宝塚演芸から借用していたが、これは、先輩諸氏から伝統的に受けついできただけに、文字どおり汗と涙の結晶であった。

3回生の頃、この衣装を新調しようということで、徳田光圓君のデザインで作った。踊りの櫓倉も桧木材で立派なものを作ったのに……。

大学が二転三転と移動した。一時は進学校として有名になった洛南高校の庇廂を借りたり、東寺本坊が教室になったり、また大日堂や宝菩提院の本堂を借りることもあって、その内にこれら新調した物件は皆紛失してしまったようだ。校地・校舎の充実は当時からの悲願であった。

しかし、法要は、故兄玉先生の御指導通りの次第に則って執行し、ある年は東寺御影堂で行ったこともあった。

昭和47年、新校舎(現旧校舎)完成にともない、講堂で厳粛に法要だけは行った。

昭和56年の降誕会には、学生の希望もあり托鉢を行ったことは、ある意味に於いては画期的なことであった。

なぜなら、我々の時代は少人数であるために、ほとんど全員が、その任に当たらねばならないし、縦割りの時代であったから、絶対服従であった。そして学生新聞を作り、色々と大学のあり方等の批判も自由に書けた。

昭和50年頃からは全国的にシラケムード化し、本学もそれにもれることはなかった。故に何かに参加して、それを成功させようとする学生は、次第にその数が減少し、今日に及んでいるのである。

本年は増改築された校舎で、立派な講堂が出来た。数年前から仏教福祉学コースが作られ、学生が増え、現在の学生数は約300名になろうとしている。

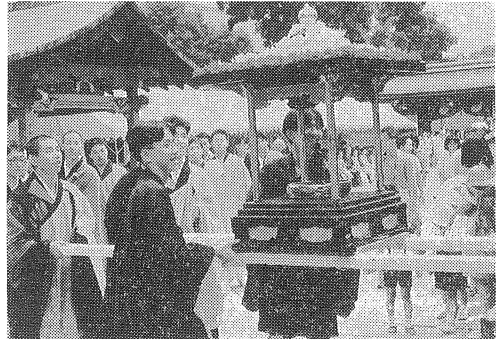
その内、寺院子弟は約20パーセントである。また女子学生も増加しており、時代の変化を感じさせられるものである。

昨年は仮設校舎のこともあって、降誕会そのものは盛り上がらなかったが、講演は京都大学人文研の井狩教授の「ペーダーにみられる護摩について」としての講演は、我々密教者によっては大変興味があり、有意義であった。

さて本年であるが、前述のように女性パワーに男性が引っぱられたと云った格好で、近年にない盛り上がりがあった。

まず女性も含む托鉢が復活し、約20名が、1組は神泉苑さんへと、また1組は六波羅蜜寺さんへのコースで行い、京都駅コンコースでは「オーン」の合唱で、囲りの人々を驚かした事である。喜捨されたお金は6万余円も集まり、此の度の雲仙岳の罹災者へのお見舞金とされた。

校門前には懸垂幕(「降誕会」と書いた)を立て、大師像の幕、5色の幕と例年になく、その気



分を盛り上がらせたことである。

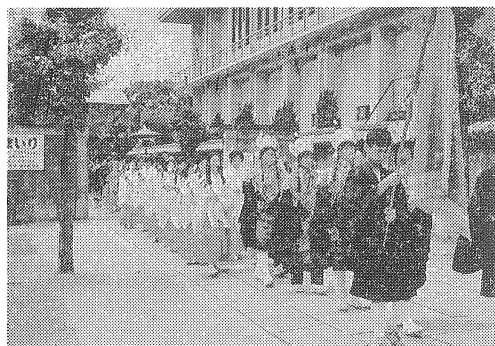
引き続き、校旗を先頭に法螺、供華者(女性)、チベット僧(五仏)、花御堂、式衆と続き、東寺北門から大宮通りを南下、九条通を西へ、南門から御影堂へと進列を進めた。

御影堂前では庭讃を唱えるつもりであったが、東寺さんも近年降誕会が盛んになり、我々の入る余地がなく、やむなく心経一卷、御宝号七返で終わり帰校した。

直ちに降誕会法要に移り、故兒玉先生の御指導通り講式も唱べ、法則通りに行った。

毎年、御本山、同窓会員、父兄にも御案内状を出しているが、本年はことのほか父兄の参列者が多く、滝湊頌を何回か繰り返したことから、午後の講演の時間に食い込むのではないかと心配したものであった。

これらを見ていると女性の力、魅力のすごさに驚かされる。まさに後期密教の何々「妃」のパワーに男性は圧倒されることを感じさせられた次第である。彼等(女)もまた来年はもっと盛大にやろうと、はり切っている。



我々先生方も考えねばならないと思う。

午後の丸山石根先生の「日本画にみる日本人の特殊性について」と題した講演も、聞く者にとっては大変感銘を与えた。

毎年法要に無断欠席者が出るが、本年はこの女性のパワーに免じて許されよう。

この法要にコーラスとか、管楽伴奏とかを入れた現代的な法要になる事を念じたい。

先生方と学生とのパネルディスカッション等も考えてと思うが、寺院子弟の参加が少ないのには誠に残念である。奮起を望みたい。

「西院流能禅方伝授録」 全七巻

加藤宥雄編

定価 六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」 全一卷

加藤宥雄編

定価 一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」

土宜法龍筆
加藤宥雄筆写

定価 二、〇〇〇円

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」

加藤宥雄筆写

定価 三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」

定価 八〇〇円

「密教の世界―不動明王と莊嚴―」

定価 一、五〇〇円

高井隆秀教授
還暦記念論集 「密教思想」

定価 八、〇〇〇円

種智院大学 密教学会

京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五

☎(075) 681-1651 三下六〇一

振替京都〇一三〇三八

石鎚山真言宗管長
総本山極楽寺法主

神 野 龍 幸

〒七九九一―二
愛媛県西条市大保木四―三六
電話(〇八九七)五九一〇〇―一



寶蓮寺住職

高 畑 龍 憲

〒七九三
愛媛県西条市朔日市五四三
電話(〇八九七)五五―三〇三〇

寺院用材の御相談下さい

長 堀 銘 木

(昭和59年卒業) 石原十喜蔵

大阪市西区北堀江2丁目2―4
電話 (06) 541―2008

コンタクトレンズ専門相談室
阪急 高槻

駅前コンタクト

〒569 高槻市城北2-4-1ファイブプラザ3F ☎(0726)75-8141

- 営業時間/AM11:00~PM7:00
- 定休日/水曜日・祝祭日(日曜日営業)

京佛具・念珠

中 村 木 芸

中 村 隆

〒601 京都市南区大宮通八条下ル九条町621 63
電話 (075) 672-0970